

土木図書館に残されていた戦前貴重映像「勝鬨橋」について

東京都第一建設事務所長 正会員 相場 淳司
土木学会附属土木図書館 正会員 坂本 真至

1. はじめに

このたび、土木技術映像委員会では、映像発掘調査の一環として、土木図書館に長らく眠っていた戦前貴重映像 5 本を発掘し DVD 化した（表-1 参照）。そのうちの 1 本「勝鬨橋」について、関連文献等から知り得るところを調査したので、報告する。

2. 書誌情報および収録内容

2.1 書誌情報

当該映像の書誌情報は以下の通り。

- ・タイトル：「勝鬨橋」（仮称）
- ・企画・製作：土木学会土木文化映画委員会（推定）
- ・制作年：昭和 14 年（1939）～昭和 15 年（1940）
- ・上映時間：5 分 36 秒
- ・備考：無声映画であり、効果音などもない。
- ・入手経緯：金森誠之（しげゆき）土木学会土木文化映画委員会初代委員長の遺族から寄贈

2.2 収録内容

シーンごとに分割した内容を表-2 に示す。

この内容を見る限りでは、完成後の可動橋の機能紹介映像であり、勝鬨橋の起工から竣工までの建設工事を記録した映像とは趣を異にすることがわかる。

3. 土木文化映画委員会の活動記録

土木学会土木文化映画委員会は、現土木技術映像委員会の前身で、昭和 11 年から昭和 18 年にかけて活動した。映画製作に携わり、短編映画「雪のローラー」「勝鬨橋」「三国峠」などを製作している。¹⁾

土木学会誌の会告には、戦前の委員会の議事録が残っており、これを時系列で追うことにより、ある程度活動の記録が浮かび上がってくる。判明した活動記録の内、「勝鬨橋」に関連のある部分を表-3 に示す。これによれば、映像は 1939（昭和 14）年 4 月にいったん「完成した」とあるが、12 月には「機械室を図面にて撮影する計画」、1940（昭和 15）年 2 月には「完成に努める」とあり、正確なところはよくわからない。おそらく、実写の部分は終わって、残りのタイトルや図による説明映像などを加えた最終完成版の作成を目指していたのではないかと推定される。同年 2 月 21 日には、「日活の関係者に勝鬨橋を含む数巻を映写」とあり、今回発掘された映像を紹介したのかもしれないが、その詳細はここからはよくたどれない。

表-1 土木図書館から発見された貴重映像のリスト

タイトル	企画・製作者名	時間	制作年
秋田男鹿地震調査	土木学会土木文化映画委員会		1939
三国国道（起工式、測量調査）	同上		1941
勝鬨橋	同上？	5 分 36 秒	1939 ～ 1940
万代橋基礎工事	白石基礎（正子重三監修）		1927
十三大橋基礎工事	同上		1931

表-2 「勝鬨橋」映像のシーンごとの内容

時間	内容
0 分 00 秒～0 分 03 秒	「勝鬨橋変電所」の看板および建物の入り口
0 分 04 秒～1 分 28 秒	機械室の中、稼働用のモーター、運転室の中、操作盤、計器類などと作業者が操作
1 分 29 秒～1 分 41 秒	信号機の表示ランプが左、中央、右と点灯
1 分 42 秒～1 分 53 秒	ロックをはずすためのレバーが動く
1 分 54 秒～2 分 20 秒	橋面のロックがはずれていく（スチールの棒が移動していく、路面電車のレールらしきものが見える）
2 分 21 秒～2 分 39 秒	レバースイッチが入り歯車が回転
2 分 40 秒～2 分 50 秒	橋面の接合部分が徐々に開いていく
2 分 51 秒～3 分 07 秒	橋面が開いていくところを裏側（下側）から接写
3 分 08 秒～3 分 18 秒	橋面の接合部分が明瞭に分離して大きく隙間ができていく
3 分 19 秒～3 分 26 秒	歯車の回転
3 分 27 秒～3 分 56 秒	橋面が上昇していくところを裏側（下側）から接写
3 分 57 秒～4 分 02 秒	橋面が左右に開いていくところを側方（船上）から橋梁全体が入る位置で映写
4 分 03 秒～4 分 24 秒	あがっていく橋面の正面に向かって、関係者（軍人らしき姿も見える）が歩いていく
4 分 25 秒～4 分 36 秒	橋面上のアーチからアーチ上部の信号の点滅を映写
4 分 37 秒～5 分 07 秒	何かが接近しているようだが、画面が暗く不明
5 分 08 秒～5 分 36 秒	再び船上から橋面が完全に開きつつあるところを何種類かの大型船が通行

表-3 土木文化映画委員会活動記録（土木学会誌会告より）

なお、初代の土木文化映画委員会委員長は、金森誠之（明治 25 年（1892）～昭和 34 年（1959））である。金森は、27 年間に内務省土木局に奉職し、地方建設局長の地位まで得た土木官僚だが、その一方で、印旛水門建設を担当する土木技術者を主人公とした恋愛映画で一般公開された「酬いらぬ人」や、「測量から舗装までの道路建設技術を紹介しつつ、道路建設に勤しむ主人公が、家主にいじめられ貧しく不憫な女性を救い、最後に着飾ったこの女性と完成したばかりの道路を自動車で滑走する映画「混凝土道路（こんくりーとどうろ）」を製作する」²⁾など、多彩な才能を発揮した人物である。土木文化映画委員会は、映画製作経験のあるこの金森が主導したと推定される。また、委員の中に「瀧尾」の名前が見えるが、安宅勝とともに勝関橋の設計にあたった東京市の技師、瀧尾達也であり、映画製作にも積極的に関与したことが知られる。

表-3 からは「文化映画」についての取り組みも見られるが、これは 1939（昭和 14）年 4 月 5 日制定の「映画法」に基くものと思われる。同「映画法」では「文化映画、時事映画の上映」の義務づけが行われ、文化映画は「国民精神ノ涵養又ハ国民智能ノ啓培ニ資スルモノニシテ劇映画ニ非ザルモノ」と定義づけられている。金森や第 2 代委員長の青木楠男らがどのように「文化映画」を捉え関わっていったのかの調査は今後の課題である。

4. 勝関橋の緒元

勝関橋は、海運と陸運の共栄を意図して建造されたシカゴ型双葉式跳開橋であり、開戦で開催が中止された東京オリンピックと万博のため、東京の海の玄関として計画された、当時の世界に誇る可動橋である。2007（平成 19）年 6 月には、永代橋、清洲橋と共に国の重要文化財に指定された。

参考文献

1) 土木学会の 80 年, 土木学会誌, 1994, p. 21
2) 今月の表紙 金森成之 図面・映画・コラージュ, 北河大次郎, 土木学会誌, 85-10, 2000. 10, P. 2

日付	出席者	記事	巻号・年月
1939 (S14). 4. 6	瀧尾、廣田、片平、下山各委員、徳丸君、野寺庶務主任	1. 勝関可動橋写真の試写をなせり。 2. 本委員会に於て土木に関する映画作成に就き積極的に働きかけることとし其の筋書等に就て協議せり。	25-5, 昭和 14 年 5 月
4. 12	瀧尾、金子、廣田、澤、下山、横田、片平各委員、徳丸君、小野寺庶務主任	1. 勝関可動橋の映画編集のため試写をなし完成するに至れり。 2. 来る 14 日の映画会に於ける瀧尾委員の講演要綱に就き検討せり。午後 11 時 20 分散会せり。	25-6, 昭和 14 年 6 月
12. 4	瀧尾、澤、金子、片平、下山各委員、徳丸君、小野寺庶務主任	3. 勝関橋映画の中機械室の部分を図面に依り撮影する計画を樹て本年中に之を完成することとした。 4. タイトル作成のため次の諸品を用意することとした。 タイトル用撮影機、その他	26-1, 昭和 15 年 1 月
1940 (S15). 2. 12	青木委員長、金森前委員長、瀧尾、澤、金子、下山各委員、徳丸君、小野寺庶務主任	日活と連絡を図るため青木委員長並びに金森前委員長が藤田日活専務と会見したる顛末の報告あり次で本委員会此後の事業に就て協議し次の事項を決定せり。 1. 内務省東京土木出張所及金森博士所有の既成映画「荒川の水を治めて」其他に依り可成的速かに文化映画を製作することとせり。 2. 文部省映画課当局を招致して談話会を開催し文化映画に関し意見の交換を行うこととせり、而して文部省当局招致に就ては委員長に一任せり。 3. 勝関橋映画完成に努めることとせり。	26-4, 昭和 15 年 4 月
2. 21	青木委員長、瀧尾、金子、廣田、横田、下山各委員、田中榮三君（日活文化映画部）、徳丸君、中村書記長、小野寺庶務主任	本夕の委員会は予定の如く日活企画部長代理として文化映画部より田中榮三君の来会あったので青木委員長から土木学会文化映画委員会設立の趣意並本委員会の使命に就いて委曲説明し、田中君より文化映画に関する説明を聴取し、文化映画法、製作、取扱等に就いて隔意なき意見の交換を行った。食事後本会がさきに準備して置いた映画「荒川の水を治めて」、「勝関橋」、「欧米ところどころ天然色映画」等数巻を映写して日活文化映画部に於ける土木文化映画製作上の参考に供し感銘を與へ 9 時 30 分散会した。本夕の会合は本委員会の発展と土木文化映画製作、普及等に対して極めて有意義に終始したことを付記す。	26-4, 昭和 15 年 4 月

表-4 勝関橋緒元（『橋梁史年表』『歴史的鋼橋集覧』から作成）

橋名： 勝関橋 開通年月日： 1940(昭和 15)年 6 月 14 日 所在地： 東京都中央区築地～勝どき 河川名： 隅田川 橋長： 246.0 (m) 幅員： 16.6+2@2.7 (m) 形式： (シカゴ型固定軸双葉跳開橋) 鋼板桁 (25.8+25.8) (m) (両側径間) 鋼下路ソリッドリブタイドアーチ (1+1) × 86.0 (m) 設計者： 瀧尾達也, 安宅勝 製作者： (可動桁) 神戸川崎車輛 (築地側アーチ橋) 横河橋梁 (月島側アーチ橋) 東京石川島造船所 (機械) 渡辺製鋼所 (電気) 小穴製作所 架設者： (可動桁) 神戸川崎車輛 (築地側アーチ橋) 横河橋梁 (月島側アーチ橋) 石川島鉄工 下部工： 半重力式 基礎工： 木杭、ケーソン 起業者： 東京市 下部工事 橋台： 東京市直営、橋脚： 基礎は東京市直営、橋脚は銭高組、一部宮地鉄工所 特記事項： 1947 年 12 月 24 日～1969 年 9 月 28 日市電併用 1968 年 3 月以降開閉中止。開閉の最後は 1970 年 11 月 29 日

2007（平成 19）年 6 月には、永代橋、清洲橋と共に国の重要文化財に指定された。